



2 火災が発生したら（初期消火）

火事の現場に居合わせたら、通報・初期消火・避難が大切です。
あわてず冷静に行動しましょう。

早く知らせる

「火事だ」と大声を出して隣近所に知らせる。
また、鍋などを叩いて異変を知らせる。

119番通報

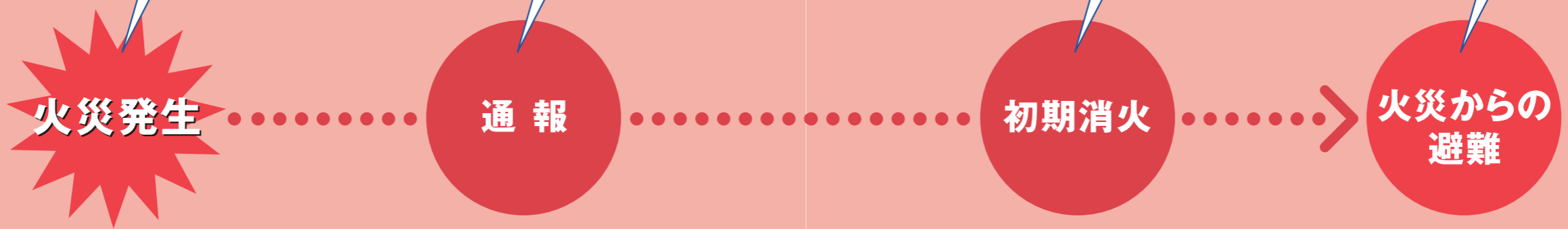
落ち着いて、できるだけ正確に情報を伝える。
まず、「火事です」と火災の発生を知らせた後、
出火場所、火災の内容、自分の名前と電話番号を正確に伝える。

初期消火

消火できる炎の限度は概ね天井の高さまでで、
水や消火器による消火はもちろん、毛布で覆うなど、
近くにあるものを活用して消火する。

避難

天井まで燃え広がってしまったら消火を諦め、
素早く避難する。
濡らしたタオルやハンカチで鼻と口を押さえ、
煙を吸い込まないように姿勢を低くして避難する。



火災対策

初期消火の方法

大きな火災でも最初は小さな炎が発端です。被害を最小限に留めるため、
小さな炎のうちに消火することが重要です。小さな火災でも一人だけで消そう
とせず、家族や近隣の方々に協力を求め、消防署に速やかに知らせてください。
初期消火で消せない場合は、無理せず避難して、消防隊に任せましょう。

油なべ

- あわてて水をかけるのは厳禁、消火器で消すのが原則。
- 消火器がない場合は、濡らした大きめのタオルなどを手前からかけ、空気を遮断して消火する。



カーテン、ふすま、障子

- 天井に燃え移ることを防ぐことが大切。
- 引きちぎったり蹴り倒したりして、炎を天井から遠ざける。



衣類

- すぐ脱げるものは脱いで足で踏み消す。
- 脱げない場合は地面や床を転げ回って消す。



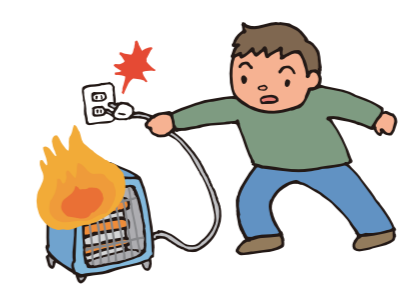
石油ストーブ

- 消火器がない場合、濡らした毛布などで覆い、その上から一気に水をかけて消火する。



電気製品

- 水をかけると感電する恐れがある。
- プラグを抜き、ブレーカーを落としてから消火する。



消火器の使い方

1. 安全ピンに指をかけ、上に引き抜く。
2. ホースをはずしてホースの先端部を持ち火元に向ける。
3. レバーを強く握って噴射する。

